

シンポジウム 超高齢社会のなかで 葬送を考える

日時：2014年5月31日（土）13:00～17:00

会場：大阪大学中之島センター 講義室 301（定員 75名）

大阪市北区中之島 4-3-53 TEL.06-6444-2100

<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

シンポジスト

- 1) **外側志津子**さん（21世紀の葬送を考える会静岡）
「葬送の頑固で重い扉をひらいて20年余……そして今」
- 2) **武宮律子**さん（NPO 法人これからの葬送を考える会九州）
「こんな風にしたい私の葬式。会員のプラン紹介があるエンディングノート」
- 3) **山崎周亮**さん（NPO 法人エンディングセンター高槻）
「こんなお墓がほしいを実現！「桜葬」とは」



シンポジウムの趣旨：大切な人を葬送するために何が必要ですか？ 近年、葬儀のスタイルが変わりつつあり、葬儀は不要とまでは言わないにしても、家族葬や密葬など、できるだけ簡素化する人が増えているようです。では、次のうち、何はなくてもいいが、何はなくしてはいけなと、皆さんは考えますか。例えば、仏式ですとしたり（別の可能性もありますし、そもそも無宗教でいいという考えもあります）、お坊さん、お経、戒名、位牌、お布施、祭壇、遺影、線香、数珠、礼服、香典、香典返し、棺、白装束、生花、花輪、お通夜、お墓、一周忌、等々。これまで、この連続シンポジウムでは、終末期医療、ホスピス、施設での看取り、死生観、人工栄養、認知症のターミナル、北欧ケア、リビングウィルと事前指示書、食べる、在宅での看取り、地域ケアカといった問題を考えてきました。とうとう、と言うか、やはり、と言うか、ここで葬送まで考えざるをえなくなりました。今回は、ご覧のように、葬送をテーマにしながらも、僧侶、葬儀屋、学者、医療関係者といった方々には遠慮していただいて、葬送についての市民活動をしている方々に全国から集まっていただき、皆さんと一緒に考えたいと思います。

■参加費：無料

■お問い合わせ・参加申し込み……参加予約が必要で

はがき又はメールでお申し込みください

氏名、TEL、FAX、メールアドレスを明記願います
定員になり次第締め切ります。

満席となりお断りする場合にはのみ、連絡いたします。

大阪大学文学研究科 浜渦研究室

「ケアの臨床哲学」研究会 宛

E-mail : yoshinokumano@gmail.com



主催：「ケアの臨床哲学」研究会（大阪）

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~cpshama/hamauzu.html>

共催：・患者のウェル・リビングを考える会（神戸）

http://www.geocities.jp/well_living_cafe/

・〈ケア〉を考える会（京都）

<http://care-kyoto.iimdo.com/>

・科研プロジェクト「定常型社会におけるケアとそのシステム」